



家に帰れば、藤沢周平。



ガバナー通信

NO
13

国際ロータリー第2620地区
2021-2022年度ガバナー

小林聰一郎

前号で皆様に二年間の感謝を述べさせていただきましたので、番外編として勝手気ままに。

「家に帰れば……」というCMを最初観た時には「?」と思いましたが、しばらくして「そうか、家に帰れば〇〇の楽しみが待っているということか」と思うようになりました。皆さんは、家に帰ればどのような楽しみが待っていますか？ ビールだ、ワインだ、映画だ、ゲームだ……いろいろな楽しみが待っていることと思います。趣味の数だけ楽しみも広がっていきますので、人生の彩としても大切なことではないでしょうか。

「さて、私は？」ということですが、ゴルフだめ、お酒だめ、カラオケだめ、「一体何を楽しみに生きているのだ」と言われそうですが、これで結構楽しく生きているのです。美味しいものは大好きで、盆栽二百鉢。松や真柏(シンパク)は一年中手がかりですが、山茱萸(サンシュユ)やガマズミの花も実も可愛い。手元の骨董の陶磁器はいくら眺めていても飽きないし、エーチャンもタクロー、ヨースイ、ユミンも、ハッピーエンドも好きだし、エレキギターやドラムはあるし、それになんと言っても藤沢周平。「秘太刀馬の骨」の浅沼半十郎、「たそがれ清兵衛」もいれば、「蝉しぐれ」の牧文四郎、「ささやく河」の彫師伊之助、「帰郷」の渡世人宇之吉……。文庫本63冊を本棚に並べ、二冊の中には小編7〜8話ほど、中編3話ほど、幾つ物語があるのか分からないくらい読んできました。江戸深川の絵地図を手元に置いて、主人公が歩く町名や橋の名前を探しながら、同じ話を2回3回と読み返しても初めて出合った物語のようで、特に風景描写の秀逸さや人々の細やかな暮らしの襷に入り込む描写は、自分がそこに居合わせているような感覚になって、話の筋立ても他人事とも思えません。

もう一つは般若心経。観自在菩薩 行深般若波羅蜜多時 照見五蘊皆空 度一切苦厄。「色即是空」「諸法空相」「真実不虛」、これらの言葉は、多分私の人生観の大きな部分を占めています。般若心経の中で教えをうける舍利子と、藤沢周平の江戸の町を歩く人々と、そして今の私たちのどこに違いがあるのでしょうか。人生の喜怒哀楽は即ち娑婆に生きる人々の生活そのものですし、百年、千年、万年前に生を受けた人々は彼岸に行つてしまひ帰つてはきません。

そして私の人生の大きな部分にロータリーがあることを喜びたいと思います。人生時間があるとどれくらいあるのかは分かりませんが、汲めども尽きぬ職業奉仕の学びと温故展新、これからをそんな時間にしていきたいと思っています。深淵を覗くという言葉がありますが、日本において独自に開花してきた職業奉仕の哲学は、まさにロータリーの深淵です。覗くだけではなくそこに降りて行つて、そしてその淵の中にも新たな水源を見出せるようになれば、尽きるのではないロータリーの旅となります。

ガバナーを終えても退屈しないで済みそうです。

奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために

GOVERNOR'S MONTHLY LETTER

[国際ロータリー第2620地区 ガバナー月信 2022.7 / 月信第13号]

地区運営ビジョン

ロータリーの中核的価値観をロータリアンの行動に変換する。



地区戦略ビジョン

元気で魅力があり地域で存在感のあるクラブを目指してロータリーの価値を高めよう。

DO MORE ☆ RID2620 TOPICS

御殿場RC創立55周年記念例会



御殿場RCは、6月9日に創立55周年記念例会を開催しました。コロナ禍を考慮し、ご来賓、近隣クラブの方々をお招きすることを断念し通常例会を記念例会として、祝宴も無く開催しました。御殿場RCは、1967年6月1日、沼津北RCをスポンサークラブとして30名のチャーターメンバーで創立されました。

記念事業として、米山梅吉記念館に些少のご寄付をさせて頂きました。例会には、創立会員であり名誉会員の菅沼久様も駆けつけて頂き、親交を温めることができました。また、クラブ在籍47年のメンバーを筆頭に在籍35年以上の現役メンバー9名に記念品の贈呈を行いました。また、米山梅吉記念館の市川様より、重厚な米山梅吉翁写真集を寄贈して頂きました。

例会卓話は、根上眞一会員のお姉様、天野昌子様が二期生として在籍された米山梅吉御夫妻が創立された、青山学院緑岡幼稚園当時のお話、米山はる園長のお人柄のお話や、総持寺にある米山家のお墓を清掃された元ロータリアンのお話などを綴った、「米山梅吉・はる夫妻とつながる幼き日の想い出」を御殿場市立朝日小学校お話の会の皆様による、朗読と映像で紹介して頂きました。また、執筆されました天野昌子様も当日はご出席され、朗読をお聞きになられました。朗読と映像は、静かにして耳に心地よく届き、格調高く卓話の時間が流れました。創立55周年の機に、米山梅吉翁の一端に触れることができ、なにか、ご縁のようなものを感じ、感慨深いものがありました。

これからも、先輩方の熱意と情熱、そして努力によって培われた伝統を重んじ、調和のとれたクラブとして発展していく所存です。(御殿場RC会長 橋本喜市)



浜松西RC創立45周年記念式典



2022年6月11日(土)、浜松西RC創立45周年記念式典を行いました。この日は、大勢のご来賓の方々にご出席いただきました。我がクラブは、1977年6月3日に創立メンバー27名で、浜松北RCのスポンサーにより創立しました。親クラブの高い志を受け、毎年数多くの活動実績を残し、現在会員数50名となり、団結力が強く、行動力溢れるクラブとなりました。今回の記念事業として、湖西市新所原駅に水仙ピピットの球根500球を植えました。これから毎年、球根がふえ、花壇いっぱいの花が増えていくでしょう。また、この植栽事業でご協力いただいた新所原自治会が、『新所原フラワーエンジェル』という花の会を立ち上げてくださいました。これから先も、共に新所原駅の花たちを見守っていきます。また、式典での記念講演には、薩摩焼の陶芸家15代沈寿官氏をお迎えし、『陶房雑話』を聞かせていただき、皆が感銘いたしました。また、15代の織細な名皿を講演の記念品にしまして、満足度の高い式典となりました。次なる50周年に向け、さらに盤石なクラブに成長していきます。(浜松西RC会長 渡邊 記余子)



島田RC創立60周年記念式典

島田RCは5月28日、創立60周年記念式典を島田市の宮美殿で開催いたしました。染谷絹代島田市長、松村友吉米山梅吉記念館理事長、大久保節夫島田商工会議所会頭などご来賓の皆様をはじめ80人が出席しました。

「長年クラブがあるのは先輩たちの築いた歴史のおかげ。今後も変化する時代に適応しながら、地域社会の発展のために活動したい」と挨拶、これまでの歩みを振り返るとともに、さらなるクラブの発展に向けた決意をいたしました。

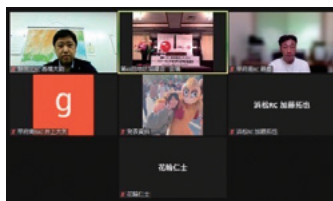
記念式典では、ご来賓の皆様からご祝辞をいただき、米山梅吉記念館へ寄付金の贈呈、パスト会長に感謝状と記念品の贈呈、例会皆出席者の表彰を行いました。また、国指定史跡「諏訪原城跡」案内看板のリニューアル、台北北海RCとの姉妹クラブ調印式など記念事業の様態をビデオで紹介しました。

祝賀会では、アトラクションとして津軽三味線奏者大塚ハレルヤさんの演奏を楽しみました。(島田RC会長 朝倉純夫)



第48回RA地区協議会

6月11日(土)、島田ローターアクトクラブがホストの下、第48回地区協議会をハイブリッド形式にて開催いたしました。今年度の地区の総括や各クラブの活動報告と、次年度の地区の方針発表や、各クラブの役員発表・活動方針の発表をいたしました。コロナ禍の為、今年度も地区内のローターアクターが一堂に会する機会が少なかったのですが、地区協議会では地区内全5クラブが現地出席し、今年度最後の地区行事を皆さんの顔を見ながら開催する事ができ、とても嬉しく思っております。



今年度の地区ターゲットである「一体感」の下、地区内のローターアクターには色々なお願いをさせていただきました。昨今のローターアクターの立場の変化による例年には無かった予定にも対応していただいたお陰で、地区として成長ある1年にすることが出来たと思っております。

今年度も残り少ないですが、地区や各クラブが次年度への引き継ぎを正確に行い、次年度も有意義で活発に活動できるように準備していきたいと思っております。(ローターアクト地区代表 山本有輝/静岡北RAC)

ロータリー財団学友会(山静学友会)総会



山静学友会はロータリー財団が提供するプログラムの参加者、すなわちロータリー財団奨学生371名、研究グループ交換(GSE)149名、同額補助金(Matting Grants)で派遣されたグループ12名、そしてグローバル補助金奨学生14名の合計546名の登録者で構成されています。



毎年年度末に年次総会を開催しています。以前は年間奨学生を20数名、GSEを5名送り出しており、奨学生のオリエンテーションやGSEの帰国報告会など宿泊を兼ねて行っておりましたが、近年はグローバル補助金奨学生を年間2~3名しか送り出していませんので、総会も地味になりました。

本年度の総会は5月28日(土)午後2時からZoomで開催されました。参加者は17名(海外からの参加者1名)、内学友で地区学友委員会の池戸智之委員長、次期柳葉文彦委員長にもご参加いただきました。会長挨拶で、これまで一緒に活躍いただいた上田副会長の突然のご逝去の報告と弔意を申し上げます。山静学友会は2023-2024年度に創立50周年を迎えます。これを記念して2024年1月~3月の間に浜松市内で式典を開催することが決まりました。地区のご協力をお願い申し上げます。

山静学友会誌第38号を発行しました。また、2020-2021年度会計と、次年度の役員人事が承認されました。(山静学友会会長 曾根真人/富士山吉原RC)

2021-2022年度 米山記念奨学委員会 引継式並びに指定校選定会議

車窓から見える富士山の雪も少なくなったと感じた6月19日。東富士五湖道路を抜けて新御殿場ICから新東名に入り、米山梅吉記念館に到着するまでの間「そうか、あれからもう一年も経つのか…」と、この一年の米山記念奨学委員会での出来事を思い返しながら、一年の締めくくりである「引継式並びに指定校選定会議」に臨みました。



会の冒頭、小林聡一郎ガバナーのご挨拶では、残すところ10日程で今年度も終わりを迎えるにあたり、今年度最後の着用であるガバナーブレザーとネクタイに触られたことが感慨深く感じました。そして、委員会に、年間の活動における労いの言葉を頂戴いたしました。その後、公益財団法人ロータリー米山記念奨学会の井上雅雄理事からのご挨拶では、日本のロータリーとしての誇りである本事業への思いと、戦争を体験された井上理事だからこそ今思う平和の尊さについてのお話を賜りました。また、委員会を常に前向きなお言葉でご指導くださいました安間みち子アドバイザーからは、コロナ禍においても奨学生のために何が今できるかを模索し、実行した委員会に携われて本当に良かったと、過分なお言葉を頂戴しました。その後の引継式では、2021-2022年度の委員会活動報告並びに決算報告を説明して次年度への引継とさせていただいた後、指定校選定会議(次期渡辺郁委員長が提案する2023学年度の地区指定大学校)が行われました。そこでは2023学年度の地区指定校が15校選出されましたので、今後は奨学会に報告したのち理事会にて審査され、8月初旬には正式に決定されます。会の結びに、浅原諒蔵ガバナーエレクトから総評いただき、小林ガバナー年度への慰労と次年度に向けてこの委員会をしっかりと引継ぎ、発展させる強い決意表明がなされました。

今後も米山記念奨学委員会へのご協力を皆様よろしくお願ひいたします。(米山記念奨学委員会委員長 柳場文彦/山梨RC)



お知らせ

◆RI第2232地区(ウクライナ)とのミーティング

国際ロータリー第2232地区(ウクライナ)のVolodymyr Bondarenkoガバナー、Rost Lukach平和構築委員と日本の2021-22年度ガバナー15名他が6月13日、オンラインで「ウクライナ地域への人道的支援要請」をテーマにミーティングを行いました。このミーティングは、RI第2630地区の呼び掛けにより実現しました。ロータリー財団災害救援基金を現地のニーズに合わせて活用できるヒントがありました。消防車、救急車などが必要だという話のほか、Bondarenkoガバナーから「ロータリー・ビレッジ・プロジェクト」についての説明もありました。荒廃した町の再建に簡易住宅を1地区2棟申請できる案で、各地区からの書類申請だけで実現するそうです。今後、申請書類のフォームを2630地区から各地区へご紹介いただけるので、次年度どのようにウクライナ支援が形作られていくかが期待されています。

◆清水RC事務所移転

清水RC事務所は6月6日(月)から事務所を下記に移転いたしました。

〒424-0829 静岡市清水区巴町9-9 TEL:054-340-3443 FAX:054-340-3448

E-mail:shimizu.rotary@gmail.com

◆甲府西RC、甲府南RC例会会場変更

甲府西RC、甲府南RCの例会場は7月からホテル談露館に変更になりました。両クラブとも例会開催曜日と時間に変更はございません。

ホテル談露館

〒400-0031 甲府市丸の内1-19-6 TEL:055-237-1331 FAX:055-233-0233

編集後記



国際ロータリー第2620地区
地区幹事 中尾 均
地区スタッフ一同

「地区内クラブの会員の皆様へ、ガバナー月信をどのように発信しよう？」ガバナーエレクト年度の地区スタッフ打ち合わせで、周知についての議論を行い、「ガバナー月信はコンパクトに、地区内の活動やお知らせを全会員の皆様と共有できるよう務めよう」という結論に至り、クラブの希望送付先へ送らせていただき、地区のホームページでも閲覧できるようにいたしました。

ご多用中のところ、原稿の執筆を快く引き受けてくださいました皆様に、深く感謝申し上げます。ご協力、誠にありがとうございました。